

日本学術会議 第3部 化学委員会 材料化学・分析化学分科会
第26期・第5回 議事録

日時:令和7年5月19日(月) 材料化学・分析化学分科会 (10:00-11:00)

場所:(オンライン開催) オンライン (Zoom)

出席者(敬称略): 栄長泰明(委員長)、齋藤公児(幹事)、内藤俊雄(幹事)、岡本裕巳、上野祐子、加藤知香、加藤昌子、川崎ナナ、菅原洋子、関根千津、竹内孝江、竹岡裕子

欠席者(敬称略): 玉田薫(副委員長)、阿尻雅文、伊藤耕三、佐藤縁、寺西利治、馬場嘉信、藤本俊幸、宮崎あかね、山下正廣

1. 前回の議事録について

議事に先立ち、前回(12月27日(金)第4回分科会)の議事録の確認を行った。

2. フォーラムについて

2025年秋ごろの開催を目指している「学術フォーラム(公開)」に関して、今回の分科会ではその方針(タイトル、開催時期、会場、規模)に関する意見交換を行うという趣旨が説明され、議論を深めた。はじめに、「学術フォーラム」は社会的な課題解決を含む、より上位概念の視点が重要であり、一部、二部を取り込めるような内容であるとよいとの玉田副委員長からのコメントについて説明があった。

●タイトルについて

社会問題を見据えて、上位概念としてCNや高齢化社会等を勘案したシンポジウムのタイトルについて意見交換した。

上位概念として、「日本の科学技術を支える」、「科学(者)が社会に果たす役割」等が重要であるとの意見があった。これらをふまえて、フォーラムのタイトルを再度検討することになった。

前回の案であった「マテリアルを支える分析、分析を支えるマテリアル」は、副題としての候補となった。「マテリアルと分析の融合」という概念を含むことが重要という意見もあった。

●構成について

最初に上位概念の視点からの講演、後半に具体的な視点からの講演とする構成

はどうか、という意見が出た。一方、上位概念は、最初の趣旨説明で委員長が述べ、分科会の本質である材料分析に関する内容を充実させるべきという意見もあった。

また、前回に推薦のあった講演者候補は人数も多いので、構成の再検討も必要かとの意見が出た。

いずれにしても、前回までに議論してきた、本分科会の本質である、材料と分析の融合などに関する基本方針を維持しながらプログラム構成を再検討することになった。

以上をふまえ、内容の再調整が必要であることから、開催タイミングも含めて仕切り直しをすることとなった。

具体的には、開催タイミングを1-3月とすることを目指し、まずは、委員長、副委員長、幹事による素案作成のための打ち合わせを行い、その後各委員に諮ることになった。

以上 齋藤記